

年 頭 挨 拶

会 長 岡 本 一 雄*



2012年の年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

昨年起きた大災害のことを顧みますと、とても新しい年を祝う気持ち、状況にない皆様もいらっしゃると思慮いたします。

一日も早い復興を願うばかりですが、一方で、大変な災害に遭われたにもかかわらず、秩序ある行動をとれる日本人の素晴らしさは、世界に賞賛されることになりました。

また、多くの献身的なボランティアの方々、世界各国からのあたたかい支援等、人間の優しさ、絆の大切さを再認識することもできました。

我々、日本知的財産協会も会員が一丸となって、心新たに、明るく元気な日本の復興に向けお役に立てるよう進んで行かなければなりません。

昨年は、東日本大震災に加え、欧州の財政危機、タイの大洪水等、日本のみならず、世界の産業界に大きな影響を与える出来事がいくつもございました。

また、金融危機の影響から立ち直りつつあった日本経済も歴史的な超円高に見舞われ、国内生産が崩壊しかねない危機となりました。

このような中、なでしこジャパン、スーパーコンピュータ「京」が世界一になるなど明るい話題は、日本に勇気と元気を与えてくれました。

これは、どんなときにも秩序ある行動を取れる日本人の持つ強み、また、日本人の持つ配慮と思いやりが遺憾なく発揮された結果と考えます。

さて、知的財産の世界に目を転じますと、政府の「知的財産推進計画2011」において、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つが重点戦略として強力に推進されております。

これら重点戦略においても、世界との調和をはかりつつ、日本の強みを生かした知恵と配慮が将来の日本の産業競争力強化に必ずつながるものと信じております。

“世界から期待され、世界をリードするJIPA”のスローガンの下、当協会の活動も、東日本大震災が会員企業に与えた影響等を考慮した上での活動にならざるを得ませんが、このようなときであるからこそ、会員企業の活力と元気を生み出せるような活動としていく必要があります。

重点活動である、①グローバル活動の推進、②JIPA 内部活動の活性化、③知財グローバル人材の育成、④JIPA 運営基盤の整備の他、各国改正案への提言・意見発信、産業構造審議会知的財産政策部会他、外部会議体への参画等、時代の変化に対応した知財制度への変革、知的財産権が尊重される

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

風土醸成に向けた啓発活動、グローバルネットワーク時代に活躍できる人材育成等、力強く取り組んでいかなければなりません。

これら活動の中で、できることをやることは勿論大事なことでありますが、やらなければいけないことに対しては、それがどんなに大きな障害・課題が伴うものであっても、やるべきことをやる決断とやり抜く行動力が、知財立国を目指す我が国の知財競争力を向上させ、ひいては日本の産業競争力強化に結びつくものと確信しております。今年もこれらをより一層、推進していく所存です。

国内の法律改正では、技術の高度化や複雑化に伴い、社外の技術を活用して研究開発や製品化を行うオープン・イノベーションが進展するなど、イノベーションの在り方が変化している点を受けて、ライセンス契約の保護強化や共同研究等における発明者保護を図れるよう制度が整備されました。また、イノベーションの裾野を広げる等の観点からユーザーの利便性を向上させるとともに、知的財産を巡る紛争を迅速・効率的に解決するために審判制度を見直す等、制度が整備されました。

更に、米国では先願主義への転換を含む改正法が成立しました。先願主義になることで、先発明争いのリスクもなくなるため、革新技術をより早く市場に投入して、新たな事業や雇用創出がもたらされるものと期待されております。

このように内外で、知的財産権の分野においても世界経済、産業の活性化に向け、種々の施策、法律改正等が行われております。

我々、日本知的財産協会も、人々が豊かで安心した暮らしができるよう、産業の発展を支える知的財産制度のあるべき姿を目指して活動してまいります。そのために、日本人の強みである配慮と思いやり、ある種の精神的美意識も取り入れながら、無限の資源であります知恵を生かした活動を推進していきたいと考えており、未来は知的財産が造り上げていくものと信じています。

明るく楽しく元気よく、会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。